
his hand

翠

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

his hand

【Nコード】

N4922A

【作者名】

翠

【あらすじ】

誰かに気付いて欲しかった。誰かに聞いて欲しかった。誰かに言うて欲しかった……。つらかった時、気付いてくれたのは陸だった。

（前書き）

恋愛にはならないかもしれませんが・・・。
読んでいただけると嬉しいです。

ここは旧校舎のベランダ。
誰も知らない秘密の場所。

木々がざわつき、ピンク色の小さな花が目立つ。
風が髪を吹き上げて・・・。

私の目からは涙が伝い落ちていた。

我慢して必死で堪えてたけどふいに込み上げてきて流してしまった。
ポロリポロリと大粒の涙が私の頬を伝い落ちてコンクリートに水玉
模様をつけていく。

私が泣いてしまった跡をしっかりと刻んでいく。
自分が嫌い。

こんなにも弱くて。

醜くて。分からず屋で。泣き虫で。短気で。最低。
いらいらしている時に声をかけてもらうと逆にもっと苛ついてカッ
となってしまう。

あたりたくないのに誰かに当たってしまう。

自分より優れている人を素直に好きになれない。

人の目が気になって言いたいことも言い切れない。

大っっ嫌い。

自分がムカつく。

さつきも亜紀に

「大丈夫？死んじやだめだよ!!」

と冗談交じりに声をかけてもらっておいて

「うるさい。人のことより自分の心配したら？」

と、返してしまった。

もう、最悪。

何でこんなにも素直になれないんだろう。

部活もうまくいかない。

友達ともうまくいかない。
勉強もうまくいかない。

本当、最悪。

自分がうまくいかないからって人に当たって。
こんな自分が嫌いだって思えてるところがまた私を苦しく締め上げている。

分かってて直せない。

だからよけいムカツク。

もう何もかもどうでも良かった。

むかついて、ムカツイテ、気分が悪い。

大声で叫びたいと思う。

心のそこから思っていることを声にしてこの狭い体の中から開放させてやれたらきつと少しはスッキリすると思うけど・・・。

誰かに相談したくても友達にはこんな弱い自分を見せたくない。

そんな風に強がってるから今にいたるのに・・・。

分かっているもやっぱりできない。

そう思うと余計に涙が溢れてきて、唇をかみ締めた。

風が涙を浚ってく。

自分自身に言い聞かせる。

「私は強い。ほら、いつでも前を見つめていなきゃ。もっと遠くを見なきゃ。」
と。

必死に前を向こうとする。

温かいものが頭に触れた。

大きくて少しごつごつした・・・あったかい手。

驚いて顔を上げるとそこには陸がいた。

陸は黙って前を向いたまま私の頭を優しくポンポンと叩いた。

私は黙って下を向いて大声で泣き始めた。

陸が「お前は強いよ」って言うてくれてた気がして。

つらい思いのせいもあったけど何よりも陸の優しさが私の涙を倍に

した。

私は自分の思っていた事を洗いざらい陸に話していた。

陸はたまに小さく相槌をうちながら最後まで聞いてくれた。
その間も陸はずっと私の手を握っていてくれた。

陸……。陸。

私のクラスメイト。

私の好きな人。

何で貴方はそんなにも優しいの？そんなに強いのに……？

陸……。陸。

ありがとう。

少し落ちいてから私は陸を見つめた。

陸はそれに気が付いて私を見つめて微笑んで

「由香は……。頑張ってるよ。」

そう言った。

その言葉に胸を締め付けられた。

誰かにずっと言っていて欲しかった言葉……。

私は声を出さずに泣いた。

そんな私を陸は引き寄せて隣に寄り添っていてくれた。
春のベランダ。

古くなったコンクリートのベランダには私の涙の跡。

涙の水玉模様は明日には消える。

春風が吹き抜ける。

明日は遠くを見つめられると思う。

（後書き）

最後まで読んでいただき有難うございます。

涙を乾かす風は誰にでも存在すると思います。
いつかその風を見つかりますように・・・。

ご意見・ご感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4922a/>

his hand

2011年1月26日23時51分発行